

各論点に係る参考資料の概要

(中断及び再開、修了等)

- 「臨床研修ワーキンググループ論点整理」参考資料（平成25年2月8日）より、本日の議題に関係した部分について、主な調査結果等の概要をまとめたものである。

2. 基幹型臨床研修病院の指定基準について

5) 研修医の処遇の確保

- 臨床研修医の給与は概ね320～720万円の範囲内にある。(参考資料 P57：厚生労働省医師臨床研修推進室調べ)
- 臨床研修病院では、大学病院より宿舍や住宅手当が充実している。大学病院では全体の7割以上、臨床研修病院では8割以上で宿舍または住宅手当が用意されている。(参考資料 P58：厚生労働省医師臨床研修推進室調べ)
- 病院への調査によると、当直回数は月4回が最多となっている。(参考資料 P58：厚生労働省医師臨床推進室調べ)

3. 中断及び再開、修了について

- 中断について、平成18～21年度の平均では、研修医の1.3%が研修の中断を経験しており、中断の48%が病気療養を理由とするものとなっている。また、中断した研修は、62%の割合で再開しており、理由別で見ると病気療養を理由に中断した研修が再開する割合が低い。(参考資料 P63～64：厚生労働省医師臨床研修推進室調べ)
- 未修了について、平成18～21年度の平均では、研修医の1.0%が研修期間終了の際、未修了と評価されており、その理由は、研修の実施期間が休止期間(90日)の上限を超えたことによるものが83%を占めている。(参考資料 P65：厚生労働省医師臨床研修推進室調べ)
- 研修医による病院ごとの環境評価において、「休暇・休養」については、600床以下の病院の方が満足度が高かった。(参考資料 P67：出典：EPOC を活用した臨床研修の評価に関する研究(中間報告))

(参考) 4. 1) 地域医療の安定的確保

- 臨床研修制度導入後の地域医療への影響については、関係のデータ等から以下の傾向が見受けられる。

[都道府県別]

- ・ 臨床研修医の採用実績について、制度導入後、都市部の6都府県（東京・神奈川・愛知・京都・大阪・福岡）では減少傾向にあり、その他の道県では増加傾向にある。（参考資料 P69：厚生労働省調べ）
- ・ 若手医師の勤務地について、制度導入後、1、2年目医師は、6都府県に勤務する割合に大きく変化は見られないが、3年目から6年目医師は、6都府県でやや増加傾向にある。
- ・ 都道府県ごとの分布割合の推移については、一様ではない。
（参考資料 P69～70：出典：医師・歯科医師・薬剤師調査（厚生労働省））

[市区町村別]

- ・ 制度導入後、都市部（県庁所在地等の一部市町村）で研修医が減少する一方で、周辺地域で研修医が増加する傾向が見られる。
- ・ また、医師3年目において、制度導入前は、都市部から周辺地域に医師が移動するのに対し、制度導入後は、逆に、周辺地域から都市部に医師が移動する傾向が見られる。
（参考資料 P71～72：出典：平成22年厚生労働科学研究「初期臨床研修制度の評価のあり方に関する研究」）

[勤務先別（医育機関、病院）]

- ・ 臨床研修医の採用実績について、制度導入後、大学病院の採用実績は減少している。
（参考資料 P72：厚生労働省調べ）
- ・ 若手医師の勤務先について、全国的に、医師1年目に医育機関に勤務している者が大きく減少しているが、3年目に医育機関に勤務している者が増加しており、変化の大きさは各都道府県で一様ではない。（参考資料 P73：出典：平成24年度厚生労働科学研究「医師臨床研修制度の評価と医師のキャリアパスの動向に関する調査研究」）
- ・ 臨床研修修了者の約7.5割が、大学の医局に入局する予定と回答している。（参考資料 P73：出典：平成23年臨床研修修了者調査（厚生労働省））

[臨床研修の実施場所]

- ・ 大都市を抱える都府県では、他県の基幹型病院からの研修医を受け入れている期間よりも、自県の研修医が他県において研修する期間の方が長く、逆に地方では他県からの研修医を受け入れている期間が長い傾向が見られる。（参考資料 P78：出典：平成23年臨床研修修了者調査（厚生労働省））

[医師不足地域での従事希望]

- 医師不足地域での従事希望は、出身地や研修を行った場所により若干異なるものの、「医師不足地域に現在従事、又は将来従事を希望する」「条件が合えば従事する」と回答した者の割合は、合わせて70%に上る。(参考資料 P78：出典：平成 23 年臨床研修修了者調査 (厚生労働省))

- 病院に、現在の各病院における研修医数について尋ねたところ、「適当」と回答した病院は57%、「より多く必要」と回答した病院は42%であった。臨床研修病院より大学病院の方が「より多く必要」と回答した病院が多かった。(参考資料 P108：出典：病院に対するアンケート調査)
- 病院に、適当と考える研修医数について尋ねたところ、「1～5」「6～10」が多かった。(参考資料 P108：出典：病院に対するアンケート調査)
- 病院に、研修医の募集定員を決定する要素として重要と考える項目を尋ねたところ、指導医数、教育指導体制の堅実性、救急症例数、年間新規入院患者数、病床数の順に多かった。(参考資料 P108：出典：病院に対するアンケート調査)